

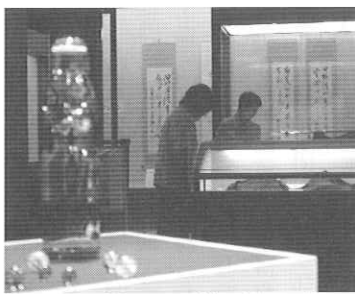
博物館だより

No.17

平成 19 年 9 月 1 日
 みやこ町歴史民俗博物館発行
 福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
 TEL 0930-33-4666
 FAX 0930-33-4667

8月の活動記録から

◆夏の企画展に多くの方の
観覧をいただきました！



企画展の様子。刀剣の鋭いばかりの美しさとガラス瓶の透明感で冷涼感たっぷりでした。

当館夏の企画展「豊前地方の私蔵書画名品展Ⅱ―逸木コレクシヨーン―」COOLーガラス瓶の歴史と美ーが多くの方の観覧をいただき無事終了しました。(ただし「ガラス瓶の歴史と美」展は9月2日まで開催) ふるさとに因む書画・刀剣の名品とともに涼しげなガラス瓶の意外な歴史に興味をお持ちいただけたのではないのでしょうか。

◆学習支援活動の成果を お届けいただきました！

なお、今回の企画展は逸木俊司氏・原次郎左衛門正幸氏をはじめとする貴重な資料の寄贈者・所蔵者のご協力のもとに進めることが出来ました。ここに改めてお礼申し上げます。

当館では本年度も町内小中学校で行われる社会科学習・総合学習活動に対して支援活動を行っています。学芸員を「出前派遣」したり博物館や各地の史跡を学習資源として活用する授業や見学会を行うもので、1学期中に複数校への支援活動を行いました。

このたびそのうちの1つ犀川中学校から、活動成果としての生徒自作の「ふるさと新聞」をいただきました。学芸員や地域の協力者のアドバイスをもとに自分たちが問題意識を持って「ふるさとの魅力ある人・モノ・コト」を新聞の



形で紹介しようとのことで制作したそうです。犀川中学校の皆さん、力作ありがとうございました！

博物館秋のイベント案内

9～11月にかけて博物館では友の会主催を含めさまざまな展示・イベント等が目白押しとなります。みなさんお気軽にご参加下さい。

■企画展

「京築地方の発掘速報展」
 10月30日(火)～12月24日(月)

■文化講演会

○9月29日(土) 九州国立博物館 本田光子氏
 ○11月17日(土) 京築地方の発掘調査報告会

○11月18日(日) 九州大名嘗教授 丸山雅成氏

■イベント

○バスハイイク 11月23日(祝) 熊本県山鹿市周辺

○歴史たんけんウォーク *小倉城下町 10月14日(日)

*英彦山 11月11日(日)

なお、内容が一部変更される場合もありますのでご注意ください。また博物館友の会は随時加入できます。詳しくは博物館まで。

9月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

9月6日(木) 9:30～

【古典かな講座】

9月13日(木) 9:30～

【古文書講座】

9月14日(土) 10:00～

【初級古文書講座】

9月28日(金) 10:00～

【みやこ学講座】

9月16日(日) 10:00～

《古文書解読コーナー》

① 損徳

〈ヒント〉〇〇抜き商売

② 子煙

〈ヒント〉都から離れた国

③ 子煙

〈ヒント〉簡単なさま

④ 学志

〈ヒント〉心のもった情け

⑤ 親疎

〈ヒント〉親しい人、親しくない人

◎ 答え

(反対向きに見て下さい)

- ① 損徳 (田) 徳 (田) 損 (田)
- ② 子煙 (子) 煙 (田)
- ③ 子煙 (子) 煙 (田)
- ④ 学志 (学) 志 (田)
- ⑤ 親疎 (親) 疎 (田)

知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラマ...
みやこの歴史発見伝 ⑥

ばばやま
馬場山遺跡出土鉄器

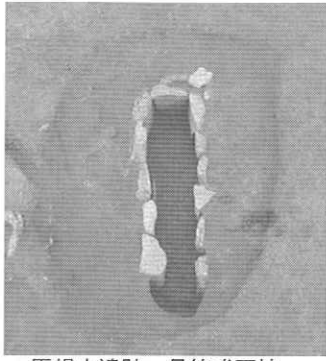
馬場山遺跡の発掘調査

今年度、みやこ町教育委員会は犀川花熊にある馬場山遺跡の発掘調査をおこないました。遺跡は馬ヶ岳南東側の山裾、標高五二m程の尾根上にあります。調査は約二五〇mの狭い範囲でしたが、五基の箱式石棺と二基の古墳が見つかりました。出土した土器などの遺物から、箱式石棺は弥生時代終り頃（一八〇〇年前頃）、古墳は一四〇〇年前頃のものであることが分かりました。

いました。そして、内部は赤色顔料を蓋石の内側にいたるまで全面に塗り、床にも敷き詰めていました。五基のうち一基は石材を抜き取られて何も残っていませんでしたが、三基の箱式石棺から副葬された鉄器が出土しました。今回は、このうち一号石棺から出土した二種類の鉄器をご紹介します。

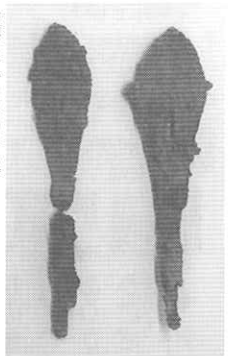
馬場山遺跡の時代

日本では約三〇〇〇〜二五〇〇年前に大陸から水稲耕作が伝わって弥生時代が始まりました。それまでの縄文時代では食糧の獲得を狩猟採集に頼っていました。水田を作り積極的に食糧を生産するようになりました。しかし、このことは必ずしも良いことばかりではありませんでした。稲作を行うためにはそれに適した土地が必要で、集落や村落の間でそうした土地を求めて争いが起こるようになったのもこの時代でした。争いを繰り返した結果、集落やその集まりである集団が統合されて行き、やがて『魏志倭人伝』に書かれているようなクニが形作られて行くと考えられています。馬場山遺跡はちょうど『魏志倭人伝』の邪馬台国の時代に作られたのです。



馬場山遺跡一号箱式石棺

大型透孔付鉄鏃



大型透孔付鉄鏃

馬場山遺跡の一号石棺と二号石棺はほぼ東西方向に向き、四五〇cmの間をあけて作られています。一号石棺は西側が少し動かされています。蓋石は東端が一つ残っていました。蓋石は東端が一つ大きく西に向かつて順に小さいものが並べられていましたが、一枚目と二枚目の境の北側から鉄鏃が二点出土しました。鏃は石棺と平行に切先を西に向けて並べて置かれていました。鉄鏃の長さは二本とも一三・五cmで幅は三・五cmと二・五cm程、中央に長さ約二cmの透かし孔があります。この鉄族は、大型透孔付鉄鏃と呼ばれるもので、弥生時代の終わり頃から古墳時代にかけて作られます。弥生時代終り頃のもの、近くでは町内の徳永川ノ上遺跡から出土しており、当時このタイプの鏃は九州でしか見つかっておらず二一遺跡の五二例しか無いと報告されています。徳永川ノ上遺跡では九本が出土していますが、日本最大のものを含む鉄製釣針五個が出土したVI四二号墓では石蓋土壙墓（素掘りの穴に蓋石を被せたもの）内

素環頭刀

部（刀身とともに出土しており葬られた人の社会的地位の高さが窺われます。この鉄鏃は出土した位置と墓穴の壁との関係から矢柄の長さが一〇五cm以内と推定されていますが、馬場山遺跡の場合には石棺のため掘った穴に入っていたとすると長さ九〇cm以内であったと考えられます。

素環頭刀

一号石棺は今回調査したもののなかでは最大のものでしたが、石棺の内部は長さ一七六cm、最も広い部分の幅が四七cmとやや狭く感じる大きさでした。床面は東側がやや高く、蓋石も東側に大きいものが用いられていることから東側に頭を向けて葬られていたようです。床面に敷き詰められた赤色顔料に埋もれて北側の壁沿いから鉄製の刀子と素環頭刀が出土しました。両方とも切先を足元にあたる西に向けて揃えて副葬していたようです。刀子は大半が失われており全長もよく分かりませんが、素環頭刀はよく残っており全長三六cm、刀身の幅が三・二cm程の刀としては小型のものでした。刀に付いた鏃を落としてみると布目がわずかに残っており、布にくるまれている副葬されていたことがわかりました。



素環頭刀

出土品が語るもの

一般にお墓の副葬品はその人の生前の生活を示していると考えられています。鉄製品は当時貴重品で、所有できるのは一部の人達だけであったと思われる。馬場山遺跡一号石棺に葬られた人は鏃と刀という武器を副葬されていることから見て、自分たちの集団のために戦った戦士であったのかもしれない。

今回の調査範囲は墓地のほんの一角に過ぎないので、その周囲にはまだまだ数多くの墓が作られていたと考えられます。その中には戦士やそうでない人もいたことでしょうが、やがて王権が確立されてゆく古墳時代を前に、激しく変化する世の中を一生懸命生きていた人々がここに眠っていると思うと感慨深いものがあります。

(辛嶋 眞治)